

福島市小中学校PTA連合会

会長 齋藤友則
(福島第一中)

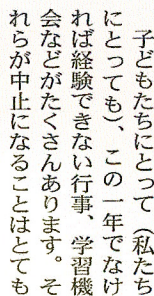
うであつという
間に過ぎていき
ます。いつで
あつても、どん
な状況であつて
も、貴重な「一

今年度はいつもとは違う一年間となりました。年度当初から新型コロナウイルス感染症の影響により一斉休校となり、その

寂しく、やるせない気持ちになることもありましたが、そのような中でも何とか子どもたちのためにやれることはないかと、様々な対策を講じながら、工夫して学校生活を進めていただいた教職員の皆様には本当に感謝の気持ちで一杯です。

「年」には変わりありません。暗い雰囲気のまま、「仕方がない」で過ぎてしまうのは残念です。刻々と変わる社会情勢をしつかり見据えつつ、何事も前向きに、子どもたちへのエールを送り続けられるような活動を今後も考えて

も考えて
いきたい
と思いま
す。

A watercolor illustration of a young girl with brown hair, wearing a blue short-sleeved shirt and tan pants, sitting on a wooden bench. She is looking towards the left. To her right is a potted plant with green leaves. The background is a soft, light blue wash.

P T A 活動におきましても多くの活動を今まで通りに開催することができず、頭を悩ませることばかりの一年間でした。この厳しい一年間においても市 P T A 連合会活動、各単 P 活動にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

「二年」という時間は長いよ

福島市小中学校長会協議会

会長 小島 英二 (三河台小)

なくなつていつたりすることもあるだろう。

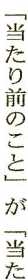
コロナ禍にあつて、各単Pの活動や学校行

東日本大震災から十年目の令和二年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に家庭も学校も社会も大きな影響を受けた。十年前に経験したように、「当たり

り前にできない」状態になると、「今まで行っていない新しい工夫・取組」が必要となるが、コロナ禍における学校・家庭での感染防止のための対応は、まさにその新しい工夫・取組の連続であった。

しかし、新しい取組も習慣化すると、それはいつしか「当たり前」

事も例年のようには実施できずに見直しを迫られたことも多いかと思う。しかし、コロナ禍の今こそ、本当に必要で意味のある取組なのか、運営方法や組織はこれでよいのかなど、これまでの当たり前を主体的に見直すチャンスなのではないだろうか。



福島市立大久保小学校長

関口 和夫

本校は統合により百四十六年の歴史に幕を閉じますが、この統合が飯野町全ての子どもたちにとって良かったものとなるようにと願っています。

そして、地域の宝である子どもたちが未来の担い手として大いに活躍し、地域の未来を引き継いでいくってくれることと期待しています。

平成三十年度に住民説明会が開かれ、福島県市教育委員会より「青木小学校・大久保小学校の統廃合、飯野地区小中一貫教育の推進等」が提案された。

その後、飯野町連合ＰＴＡを中心に保護者、アンケートの実施、保護者説明会の開催、飯野地区自治振興協議会・地区町内会連合会会との協議等を行い、飯野地区として令和二年三月十八日に飯野小学校への統合に同意した。

平成三十年度に住民説明会が開かれ、福島県市教育委員会より「青木小学校・大久保小学校の統廃合、飯野地区小中一貫教育の推進等」が提案された。

その後、飯野町連合ＰＴＡを中心に保護者、アンケートの実施、保護者説明会の開催、飯野地区自治振興協議会・地区町内会連合会会との協議等を行い、飯野地区として令和二年三月十八日に飯野小学校への統合に同意した。

福島市立青木小学校長

佐藤
厚生

本年度をもって青木小学校は百四十六年の歴史と伝統に終止符を打ちます。学校が閉校となっても、記憶は永遠です。校舎に刻み込まれた元氣一杯な子どもたちの声、光り輝く汗、先生方の情熱地域の方々の熱い思いが、記憶として新しい学校に受け継がれていくと信じています。



災害からいかに命を守るべきか

福島テレビ・気象予報士 斎藤 恭紀



みなさん、こんにちは。福島テレビの気象予報士の斎藤恭紀と申します。子どもたちの学校環境をよくするために地域、家庭を結ぶの要として、日々PTA活動をされている皆様には心から敬意を表します。実は、私も現在大学生の子どもが小学生だった頃に仙台でPTA会長を拝命し、二年間活動をしていました。当時は震災から時間があまり経っていませんでしたので、学校施設が被災し行事が行えなかった中でも子どもたちが喜ぶ行事を企画したことは今でも良い思い出です、貴重な経験をさせて頂きました。

私は福島県に生まれて七年になります。その前は仙台でお天気キャスターをやっていました。なぜこの仕事に就いたのか？実は天気が好きだったわけでも、この職業に就きたいという希望があったわけでもなく、本当にひよんなことがきっかけだったのです。

私が大学生の頃、学費の足しにと考えていた東京ディズニーリゾートのバイトにのめりこみ、あまり勉強も問題意識もたないまま四年間の大学生生活を過ごしていました。

当時のバブル全盛とは言えのほんと生きてきた私を欲しがると就職が決まっていたのは私だけ。困った私は新聞の求人欄で職探しをしていたら『あなたも地球の体温を測りませんか？』という怪しげな言葉を掲げる企業の求人。それは民間の気象情報会社ウエザーニューズの求人広告だったので。

私の実家から自転車で二十分の距離、幕張新都心の高層ビル二十一階のオフィスで『こりゃいいな』。受かるわけなさそうだけどエントリーしてみるかと気軽にエントリー。行ってみたら最初の面接がウエザーニューズの創業者の今は亡き石橋博義社長。『天気予報は生活に密着した情報だから、もっとわかりやすい、楽しい情報発信がほしい』と何を知らないうちにハタリを言われた。それに對し、『気象情報は命や財産を守るといふ使命がある一方で、ニュースにもエンターテインメントにもなる。ウエザーニューズニュースなんだよ！斎藤くん、君、おもしろいね！採用だ』と石橋さん。わずか十分で採用決定。ここから私の人生は大きく流れが変わったのです。

ちなみに石橋さんがウエザーニューズを創業したのは福島県が大きく関係しています。昭和四十五年一月、いわ



きの小名浜港で木材を運搬していた空気が猛烈に発達した低気圧の嵐でいかりが切れ、防波堤に激突、十五人の尊い命が失われました。実はこの用船を担当していたのが、当時商社マンで木材輸入をしていた石橋さんでした。この遭難事故から石橋さんは気象情報をもつて『船乗りの命を守りたい』とウエザーニューズを創業されました。

『上から目線の情報発信ではなく、情報民主主義だ』と石橋さん。生活者目線で生活している人が欲しい情報を伝える。今はどこでもある鍋物指数、洗濯指数をテレビで初めて展開したのも石橋さんのアイデア。『強い雨が降る』だけで『強い雨が降る』の説明で終わるのではなく、情報を見聞きしている方にどんな影響をもたらすのかをブレゼンして初めて情報として成立することなど、徹底的に情報民主主義を叩き込まれました。福島県は多くの人が私の気象情報を見て支持してくださっているのはこの石橋さんから『金の天気予報』の作り方を学んだからです。

試験はマークシート式が三十分。筆記は天気図を見ながら起こり得る現象や災害、なぜ台風が発達しているのかなどを書きます。試験は一年に二回。マークシートはクリアすれば一年は免除されますが、筆記が受からなければまたイチからマークシート試験を受けなければいけません。一回目の試験は箸にも棒にも引くからず不合格。三回目ようやくマークシートをクリアしたものの、四回目、五回目不合格でイチから。朝から晩まで時間があれば勉強をしましたが、努力は報われず、六回目も七回目もダメ。二十代後半の独身の最も楽しい時期を気象の勉強に費やしました。それまで辛いことから逃げてきた私ですが、ここでやめたら、一生嫌なことから逃げる自分になってしまうのではないかととつと踏ん張り、八回目に四年かけて合格

を勝ち取りました。私が皆様に情報発信の仕事ができていたのは、この四年の勉強が礎になっていたのは間違いありません。試験に合格することや夢をかなえる結果を出すことはとても重要だし、その結果があるから多くの人から認められ報酬を頂けることに間違いありません。しかし、もっと重要なのは結果を出すまでの姿勢や鍛錬で、それがのちの強い自分をつくる。負けても落ちてでもあきらめない。たくさんさんの失敗や苦労が必ず強い自分をつくってくれるはずなんです。

気象予報士としての私のモットーは『情報をもつて命や財産を守る』です。福島県で大雨や暴風があつてもひとりの被害も出させないというのが私の目標ですが、残念ながらおとしの台風十九号では県内で三十人も尊い命が奪われました。近年、災害級の大雨が増加しています。福島県では、一時間五十ミリ以上の雨が一九八〇年代にくらべて三倍に増加しているというデータがあります。

なぜ、大雨が増えているのか？間違いなく地球温暖化が起因しています。福島ではこの一〇〇年で平均気温が一℃以上上がっています。一〇〇年前の福島市は今の岩手県一関市と同じくらいです。気温が上がれば、空気中に含まれる水蒸気量が

増えるので、どうしても雨量が増すわけですね。昭和六十一年の八・五水害後に平成の大改修で水害に強い阿武隈川になりました。

一方、今回の十九号台風は支流の決壊が被害を多く出した原因です。これから国も県も支流の堤防強化や掘削などを進めていきますが、ハードに過度に依存することは危険です。

二〇一一年東日本大震災発生時の『釜石の奇跡』をこ存じでしょうか。釜石市の三〇〇〇人の小中学生がひとりも命を落とすことなく避難できたのです。これは日頃から防災MAPを子どもたちが自ら作成し、下校訓練をし、算数の問題に津波のスピードを絡めた計算問題が出るなど徹底した防災教育の賜物でした。ハードとソフトの融合、特に子どもたちの防災意識を上げていくことが未来の災害発生に向けて大切なことだと考えています。

福島県には、会津盆地にも、福島盆地にも、相馬にも、いわき市にも地震の巣である断層が走っています。福島県沖にはプレート同士の境目もあり、私たちはまさに地震の巣の上に住んでいるということも忘れてはいけません。

二〇二二年、新しい一年が始まりました。昨年はコロナで始まりコロナで終わった一年になりました。今年はコロナで始まったけれどコロナは終わったと言える一年になることを祈念しています。人類はウイルスと戦ってきました。今から一〇〇年前、スペイン風邪が福島県を襲いました。スペイン風邪の正体はインフルエンザ。福島県内では五十四万人の方がかかり、東北で最も多い八千人の方が亡くなっています。このスペイン風邪は世界の人口の三分

の一がかかったことで多くの方が免疫を獲得し収束しました。その後もSARSや二〇〇九年の新型インフルエンザなど次々と新しいウイルスが誕生し、人類の脅威となりましたが、ワクチンの開発や自然消滅などで収束していますから、今回も必ずや収束するという希望をもちながらコロナ禍が去るのを待ちたいと思います。

NO RAIN NO RAINBOW ハワイのことわざです。このウイルス災害でリモートワーク化が進み、窮屈ではない新しい生活様式も生まれてくるはずなんです。命の大切さ、大切な人いることの尊さを一層感じる機会になりました。今年は、分断でなく、協調し不安が払しょくされて安心を掴むことができる年になることを願っています。

の一角がかったことで多くの方が免疫を獲得し収束しました。その後もSARSや二〇〇九年の新型インフルエンザなど次々と新しいウイルスが誕生し、人類の脅威となりましたが、ワクチンの開発や自然消滅などで収束していますから、今回も必ずや収束するという希望をもちながらコロナ禍が去るのを待ちたいと思います。

NO RAIN NO RAINBOW ハワイのことわざです。このウイルス災害でリモートワーク化が進み、窮屈ではない新しい生活様式も生まれてくるはずなんです。命の大切さ、大切な人いることの尊さを一層感じる機会になりました。今年は、分断でなく、協調し不安が払しょくされて安心を掴むことができる年になることを願っています。

の一角がかったことで多くの方が免疫を獲得し収束しました。その後もSARSや二〇〇九年の新型インフルエンザなど次々と新しいウイルスが誕生し、人類の脅威となりましたが、ワクチンの開発や自然消滅などで収束していますから、今回も必ずや収束するという希望をもちながらコロナ禍が去るのを待ちたいと思います。



財政委員会

委員長 森久保 勇
(附属特支)

令和三年度教育予算に関する要望書について

財政委員会では「令和三年度教育予算に関する要望書」を基に「令和三年度教育予算に関する要望書」にまとめ、令和二年十一月五日に齋藤連合会長をはじめ十四名で教育委員会及び議会事務局へ提出し意見交換会を行い、要望の重点課題である7項目について教育委員会の担当部署より丁寧に回答をいただきました。要望の中でも新型コロナウイルス感染症対策では、衛生資材の確保、スクール・サポート・スタッフの配置やICTを活用したオンライン授業による学習機会の確保を要望しました。古閑教育長からは要望の全般事項

として教育現場からの貴重な声として真摯に受け止め、学校教育の充実

福島市の未来を担う子どもたちが、今後も安心して学習できる環境を維持し、夢や希望にチャレンジする力や多様性を尊重できる心を育めるように予算要望(アンケート調査)を継続して欲しいと思います。



進路対策委員会では、県北地区内すべての中学校の進路指導の充実を寄与することを目的として活動してきました。例年は、六月に総会が実施される予定でしたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため書面決議となりました。今後の動向が全くわからない先行き不透明なスタートとなりましたが、常

任委員会は予定通り八月三十一日に開催することができました。常任委員会では、県北地区各私立高校への要望書を協議し、感染症予防対策や感染者等への対応について付け加え、九月十一日に四名で各私立高校を訪問しました。どの高校でも温かく迎えてくださり、内容を検討して頂きました。各高校の特色や大学、

中学校の進路指導の充実を寄与

福島第三中学校 八巻 昌子

進路対策委員会

委員長 栗原 守
(福島第三中)



家庭教育推進委員会

委員長 梅津 奈緒美
(吾妻中)

「家庭教育に関するアンケート調査結果」

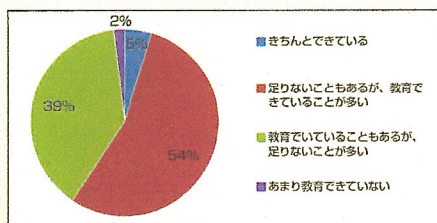
令和2年度 福島市小中学校PTA連合会 家庭教育推進委員会

1. 調査実施概要

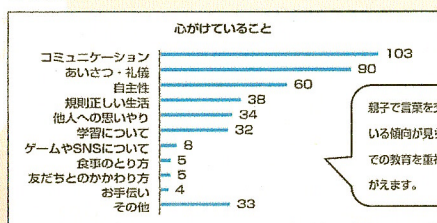
- 目的
例年開催されている家庭教育推進委員会の全体研修会が新型コロナウイルス拡散防止のために中止せざるを得ない状況となりました。委員で話し合い「家庭教育」というものがどれだけ認知されているものなのか、福島市内の小中学校の保護者の方々に協力いただきアンケートを行うことにしました。結果を周知することによって情報の共有や提供、何らかの気づきになることを期待し、今後の委員会活動に役立てることを目的として実施しました。
- 対象
福島市内小中学校保護者 各校6名(432名:回答数428)
- 調査実施期間
令和2年10月1日~10月16日
- 調査方法
インターネット(QRコード)を利用しアンケートを配付・集計

2. 調査結果概要

- お子さんの家庭教育の状況について、どのくらいできていますか?



- 家庭教育をする上で心がけていることはどのようなことですか?



就職などの進路状況なども詳しく説明して頂き、親としても実りある貴重な時間を過ごすことができました。福島市は年末に新型コロナウイルス緊急警報

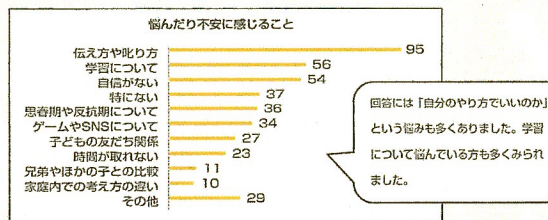
が出される中でしたが、私立高校入試は滞りなく無事終了しました。各高校の先生方には、親身な対応をしていただき、誠にありがとうございました。

また、コロナ禍の中、不安の中のスタートでしたが、事務局の先生方、常任委員の方々のお力添えがあり、無事に活動を終えることができた。

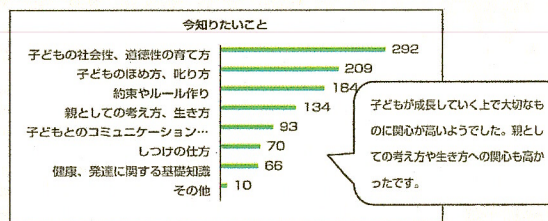
きました。心より深く感謝申し上げます。



- 家庭教育をする上で悩んだり不安に感じたりすることは何ですか?



- 家庭教育について今後どのようなことが知りたいですか?



- 家庭教育について思っていることがあればお書きください。(自由記述)
このアンケートの回答が多かったのは、保護者の家庭教育についての不安や悩みでした。「仕事と子育ての両立が難しい。」「忙しくて子どもと触れ合う時間がない。」「悩みを打ち明けたり、解決できる場がない。」「親の思いが子どもに伝わらない。」「ほかにも、他の家庭との相違、兄弟の公平さ、友人関係、反抗期、メディア(SNS等)、金銭問題、父と子の関わり方など、回答は多岐にわたりました。
また社会性(マナー・ルール)を身につけさせたいという保護者も多く「挨拶の習慣、基本的な生活習慣、規則正しい生活」「思いやりの気持ちや、感謝の気持ちを育てたい」「人として大切な部分を育むのは家庭の役割」など家庭は人との接し方・かわり方を学ぶ基盤と考えている回答も多くみられました。

3. まとめ

このアンケート調査を通して、家庭教育についてたくさんの保護者がみんな同じように悩みながらも、子どもたちのために頑張っている姿を見ることができました。学年が上がれば上がるほど勉強も重要になりますが、それ以上に子どもたちは家庭の中で大切なことを学ばなければなりません。「家庭教育」と「学校教育」は子どもたちが自立するまで必要な基礎作りという点では同じですが、学校教育は集団の中で学び、家庭教育は親子が一つで自立するまで続く教育です。
家庭の中でマナーやルール、相手を思いやる心を育て、人はだれかと関わりながら生きていくことを何気ない日常を通して学んでいくのだと思います。この過程で親子とも一緒に成長していくことで親子の絆はさらに深くなるのではないのでしょうか。
子どもが次のステップへ踏み出そうとした時に、これまで育んできた家庭での教育と、子どもの可能性が最大限に発揮できるよう、自信をもって背中を押してあげられる親でありたいと思います。
最後に、アンケート調査にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

厚生委員会

委員長 畠 一眞
(西根中)

今年度の最後に思うこと

厚生委員会は、ソフトボール大会とバレーボール大会の運営が主な活動となっていました。今年度は開催出来ませんでした。本来ならたくさん業務があったことと思います。しかし、中止とはいえ、その裏では私の所属する中学校の教頭先生には、諸調整や多くの事務処理等を行っていただき、ありがとうございました。事務局役員の方々においても、例年通りにはいかなかった今年度でしたから、大変ご苦労され

健全育成委員会

委員長 富田 光一
(附属中)

地域社会との重要さを再考

今年度は多くの行事やイベント等の中を余儀なくされ、健全育成委員会としても活動ができな状況が続きました。そのような中で当委員会のあり方について少し考えてみました。

今から四十年前、私が小さい頃は夕方まで遊んでいると、近所のおばさんが、『暗くなるよ！早く家に帰るな！』とか、『お母さんが心配するよ！』なんてよく声をかけられていました。今考えてみると、誰かもわからない近所の大人達に常に見守られていたのだと気づきます。

少子化や核家族化が進んでいる今は、地域での結びつきが弱まり、地域全体で子どもたちを守り育てていく環境が希薄になっているように思

生徒・全PTA会員と共に作る広報紙(飯野中)



読んで楽しい広報紙発行」を目指しております。

今年度はコロナ禍の影響により、例年通りの学校行事が中止となる中、生徒の学校生活や部活動の課外活動を出る限り伝えようと紙面構成いたしました。

また、当校広報紙では生徒・保護者アンケートによる紙面作りにも注力しております。今年度はアンケート項目として、コロナ感染症に対する現状の生徒・保護者の意見集約や学校による感染症対策を特集し、皆様の考えを把握する場となりました。

アンケート成功のポイント

の結びつきも重要になってくるのではないかと考えます。

PTA健全育成委員会としても、地域社会の重要さをもう一度再考し、住んでいる地区や町会などとも積極的にコミュニケーションをとりながら、子どもたちのために何が出来



広報委員会

委員長 佐藤 卓宏
(野田小)

広報紙のコンクールが中止に...

本年度、広報委員会の委員長を務めさせていただき、た野田小学校のPTA会長の佐藤卓宏です。

二〇二〇年は新型コロナウィルス感染症対策の中で様々な事業が中止となりました。

この度は全国小・中学校PTA広報紙コンクールにて四年連続の表彰の栄誉を授けられましたことは、誠に身にまわる光栄です。広報紙作成におかれましてご尽力いただき、また関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

日頃より私どもPTA広報紙は、「学校と家庭を繋ぎ、心残りとしては、この状況の中でも各学校のPTAの皆様が制作した広報紙のコンクールが開催できなかったのは本当に心苦しい思いであります。



編集後記

「今年度は特別な年だから」。

この言葉が、実に様々な場面何度となく使われた一年でした。[Against コロナ]から[With コロナ]にかわり、子どもたちも先生方も保護者も我慢を強いられながら、「新しい生活様式」への転換を図ってまいりましたが、いまだに先が見えない状況が続いています。

そんな中で市連Pの活動も



作成して参ります。引き続き当校PTA広報紙「これび」を宜しくお願い致します。

令和2年度 市連P広報委員名簿

No.	学校名	会員名
1	福島第三小学校	目 黒 貴 裕
2	清水小学校	大 関 裕貴子
3	北沢又小学校	渡 辺 真 紀
4	御山小学校	伊 藤 茂 雄
5	岡山小学校	大 波 雄 二
6	大笹生小学校	佐々木 聡 弘
7	佐倉小学校	亀 岡 昌 弘
8	水原小学校	本 田 諭 宏
9	野田小学校	佐 藤 卓 宏
10	大久保小学校	武 藤 里 健
11	青木小学校	須 原 太 守
12	福島第三中学校	栗 原 仁 美
13	清水中学校	赤 城 祐 次
14	西信中学校	佐 藤 正 彦
15	野田中学校	伊 藤 正 彦

制限され、多くの活動が中止となりました。

今回の会報作成にあたり、活動ができなかった委員会が多い中で、原稿をお願いしたにもかかわらず、ご協力いただき、心より感謝いたします。

コロナ禍が続きますが、pinchをchanceにかえてchallengeしてchangeする「四つのC」で乗り越えていきましょう！